

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

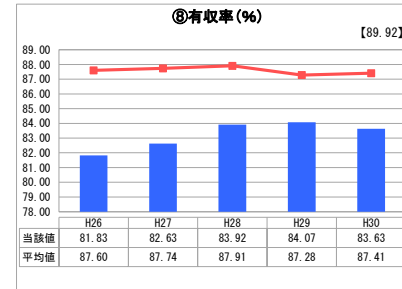
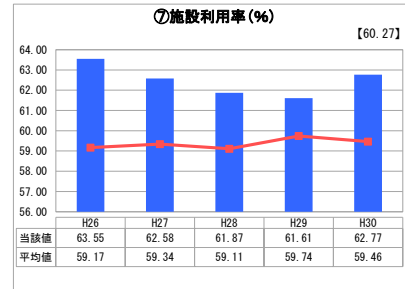
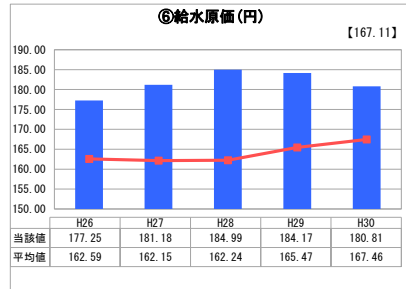
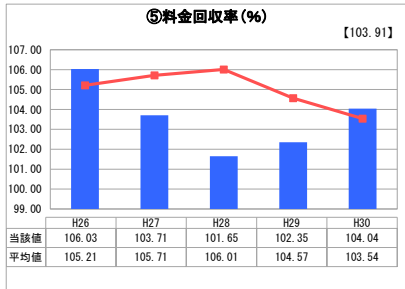
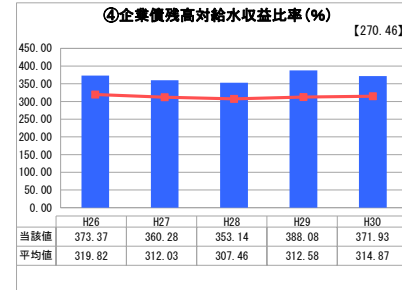
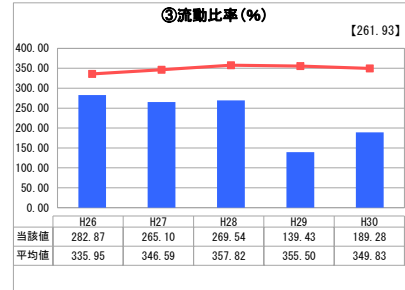
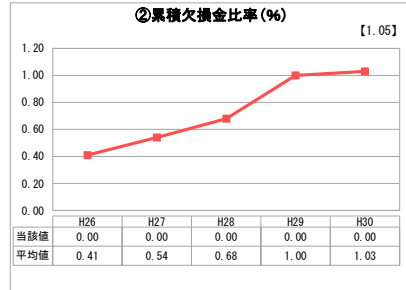
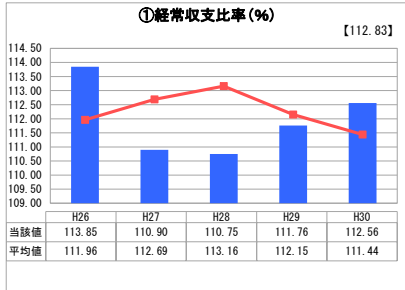
長野県 塩尻市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	66.91	99.91	3,070	

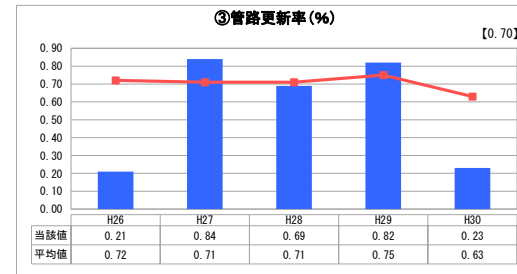
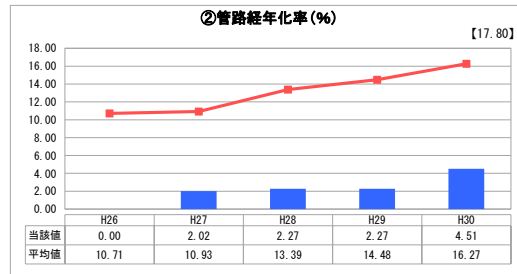
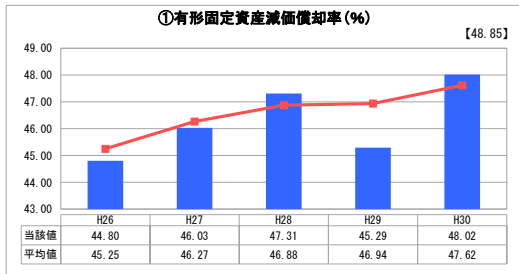
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
67,379	289.98	232.36
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
67,081	102.97	651.46

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%以上を維持し、経常損益は黒字となっています。  
 ②累積欠損比率は、直近5年間に欠損金を計上していません。また、給水収益が前年度よりも増加していることから健全な経営を維持していると考えられます。  
 ③流動比率は、100%以上を維持しており、債務に対し賄えていると考えられます。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均よりも高い傾向にあります。今後も企業債借入額の抑制につながる投資の在り方の検討や、企業債以外の財源確保に努めていきます。  
 ⑤料金回収率は、100%以上を維持しており、給水に係る費用は賄えていると考えられます。  
 ⑥給水原価は、類似団体平均を上回り、高い水準となっています。今後も施設の更新等により給水原価の上昇が予想されるため、投資の効率化や維持管理費の削減に取組む必要があります。  
 ⑦施設利用率は、昨年度よりも配水量が増えたことにより、上昇していると考えられます。今後も確実な供給能力を維持しつつ、需要に見合うよう施設規模の適正化を検討していきます。  
 ⑧有収率は、類似団体平均に比べ低い水準を推移しています。老朽管路の更新など、漏水対策に努めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均とほぼ同じ水準で推移しています。  
 ②管路経年化率は、類似団体平均より下回っているものの、上昇傾向にあります。  
 ③管路更新率は、類似団体平均よりも低い水準となっております。今後は、老朽化した施設・管路の更新に相当の年数が見込まれることから、計画的かつ積極的な管路更新等を実施していきます。

## 全体総括

今後の水道事業経営にあたっては、水道料金への影響を最小限とし、将来にわたり利用者の負担を可能な限り抑えるため、投資の平準化及び整備コストの縮減を図っていきます。  
 また、施設の重要度や健全度に応じた修繕や更新を行い、施設の延命化やライフサイクルコストの低減を図っていきます。  
 水需要の減少に伴う給水収益の減収が予想される中、老朽施設の更新等に多額の投資が必要となりますが、投資と財政のバランスに配慮し、長期的な視野に立った効率的・効果的に事業を展開し、更なる経営改善に取り組むことで、健全で持続可能な事業経営に動めていきます。